

## ■（194）復興工事を前に捜索、行方不明者の家族の願い

岩手県釜石市の海岸で10日、警察官たちが漂着した木材や漁具、ごみなどを片付けながら、東日本大震災の行方不明者の痕跡を捜した。同市と湾対岸の大槌町だけでも不明は500人以上にのぼる。犠牲者が履いていたと思われる靴下も最近、海岸で見つかった。

被災地では復興工事が急ピッチで進んでいる。住宅が流された跡の土地にはかさ上げ用の土が盛られていく。一部では大型ベルトコンベアーを使い、横の山から一気に大量の土を投下する。海岸には防潮堤が造られる。暮らしの再建に徐々に近づいているように見えるが、行方不明の家族を捜し続ける人にとってはつらい状況でもある。土やコンクリートで地面や海岸が覆われてしまうと、もう二度と、そこに落ちていたかもしれない手がかりを捜せなくなるからだ。そうなる前にもう一度、捜してほしいと警察や行政に依頼が来る。そんな最後の望みを託した捜索がいま、被災地のあちこちで続けられている。

身元不明の遺体も県内だけで63体。4月に1体が釜石市内の女性と判明した。震災2日後に発見された遺体だった。不明者も含め、遺骨のない墓がまだ多いということだ。（山）